

けんぼんちやくしよくしゃかさんぞんぞう
絹本著色釈迦三尊像 1幅

所有者：宗教法人林泉寺（碧南市本郷町3丁目8番地）

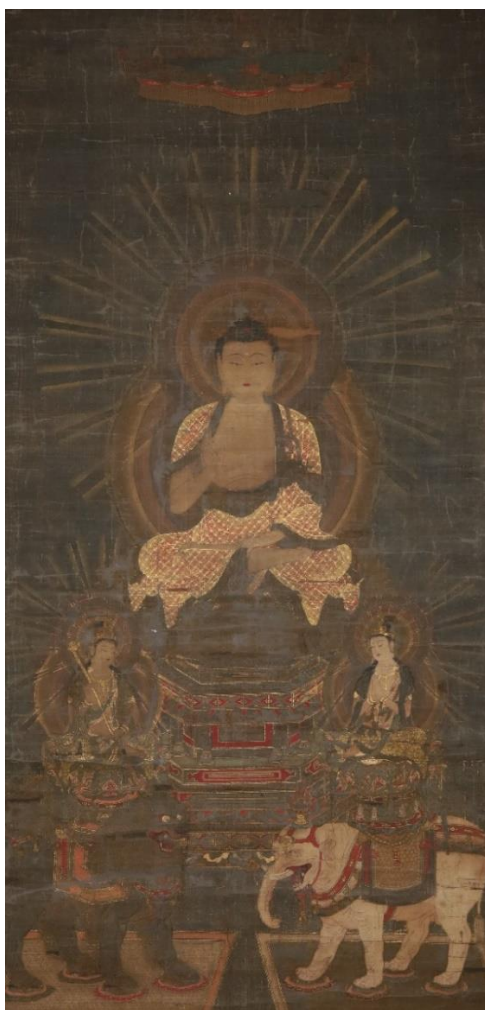
碧南市藤井達吉現代美術館寄託

法量：縦82.8cm、横39.4cm

【概要】

画面の中央に釈迦如来、向かって右に白象に乗る普賢、左に獅子に乗る文殊の両菩薩を描いた作例で、精緻な截金^{きりかね}文様を多用し、繊細優美な画面に仕上げた優品である。平安時代末の美しい趣を残す一方、鎌倉時代の傾向も看取される本作は、13世紀前半の作と思われ、1枚の画面に描かれている釈迦三尊像としては、我が国において古例に位置する重要な作例である。欠失や補加筆が少なく、当初の姿をよく留める点でも価値が高い。（鎌倉時代・13世紀）

^{きりかね}
1 截金 金箔などの金属箔を、造形物の表面に貼って文様を表現する伝統技法。



写真提供：京都国立博物館